

台風 の 誕生

台風は、毎年1月から数えて最初に発生したものを第1号、それから第2号、第3号と順に番号をつけていきます。今年の第1号は7月9日でした。これは気象庁が正式に記録を取り始めた1951年以来もっとも遅い記録です。台風は平均すると1年間に約28個、8月末までには約14個発生しますが、今年は8月末でまだ4個しか発生していません。台風の発生が少ない年のようです。

さて、この台風いったいどこでどのようにして生まれるのでしょうか？

台風の生まれる場所

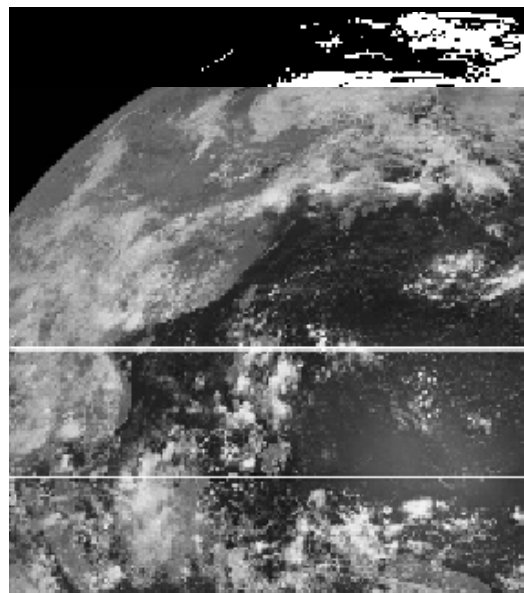
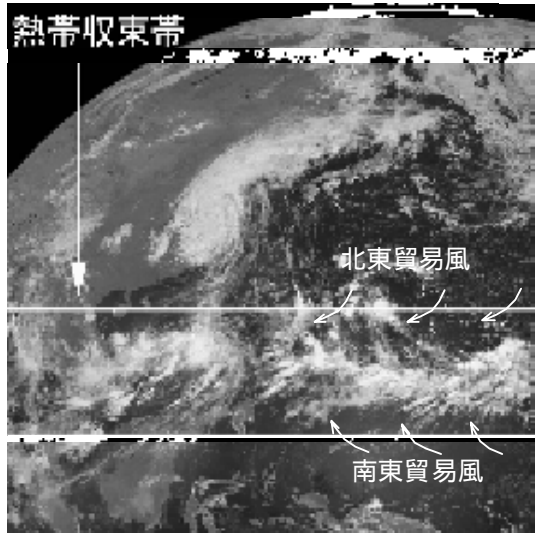
日本の南、赤道のあたりに北半球の北東貿易風と南半球の南東貿易風がぶつかり雲が生まれる地域があります。これは熱帯収束帯と呼ばれていて季節によって移動し、北半球の夏には北緯10度 20度付近に位置しています。台風はおもにこの熱帯収束帯で生まれます。

雲の集まりから台風へ

熱帯収束帯で雲は、雲クラスターとよばれるいくつかの雲の集まりとして生まれます。雲クラスターはそのほとんどが一日くらいで消えてしまいます。消えないで残ったものがまわりの雲を集め、やがて熱帯低気圧に成長します。なお、どの雲クラスターが熱帯低気圧まで成長するかはこの地域の観測データの少なさなどからまだよくわかっていません。

熱帯低気圧は海水温が27をこえるような暖かいところにいると、海からたくさん水蒸気をもってさらに発達します。そして中心付近の最大風速が毎秒17メートルをこえると台風になります。

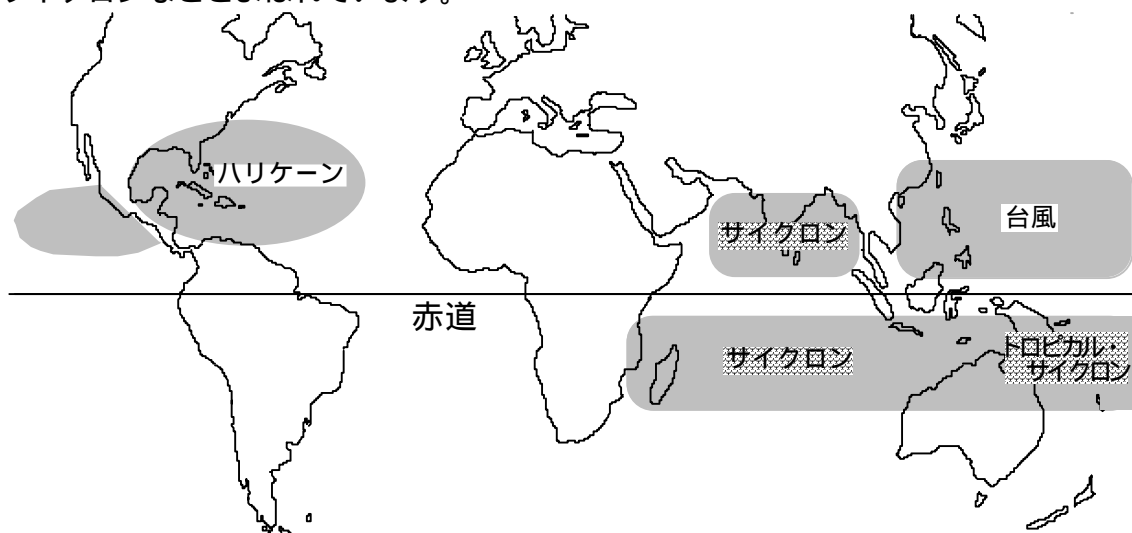
今年8月のある日の熱帯収束帯を見てみると雲があまりないことがわかります。これ



今年8月の熱帯収束帯（あまり雲がありません）

は太平洋高気圧が南に張り出していて雲の発生が押さえられているためです。これでは台風が生まれません。

なお、台風の仲間は北大西洋の西部、インド洋などにも発生し、それぞれハリケーン、サイクロンなどとよばれています。

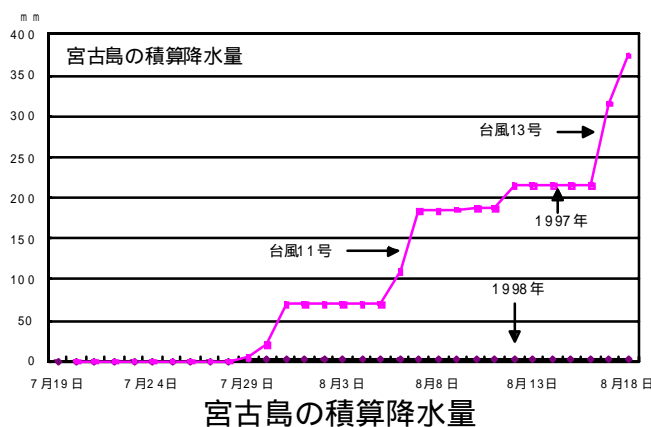


世界の台風の名前

台風は給水車

台風がやってくると強い風や大雨などで洪水や土砂くずれなどの気象災害をおこします。しかし、一方では台風がもたらす多量の雨は水不足で困っている人たちには恵みの雨となることもあります。

沖縄本島の西にある宮古島では去年の夏、台風が2回近づいたこともあって降水量が400ミリ近くありました。ところが台風がやってこない今年の降水量はわずか数ミリ、水不足が心配されます。



地球という大きな目で見ると、台風は熱帯地方の水を、日本のような中緯度の地域へ運んでくれる給水車のやくわりを果たしているともいえます。

(吉村博儀)



富山市科学文化センター

〒939-8084 富山市西中野町1-8-31 TEL(0764-91-2123)
ホームページ <http://www.tsm.toyama.toyama.jp>

平成 10 年 9 月 1 日